

重点1 毎日の授業の充実

1B 指導方法の工夫改善（中学校）

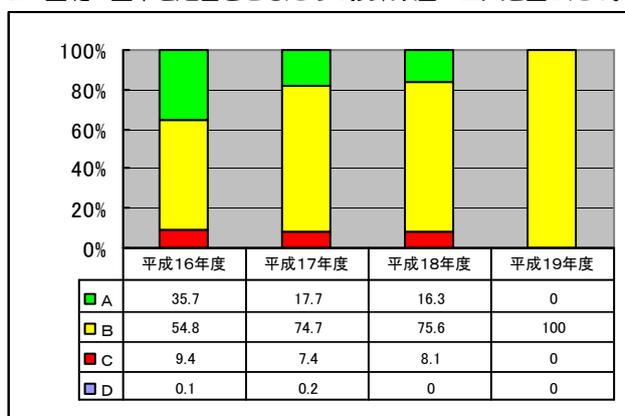
ねらい

中学校では、小学校の学習の成果を引き継ぎ、義務教育の修了にあたって一人一人の生徒に「生きる力」「共に生きる力」を育むように努めています。特に、生徒の特性や習熟度等を考慮し、選択教科の充実をはじめ指導方法・内容等を工夫し、基礎・基本を徹底するなど授業改善をめざしています。

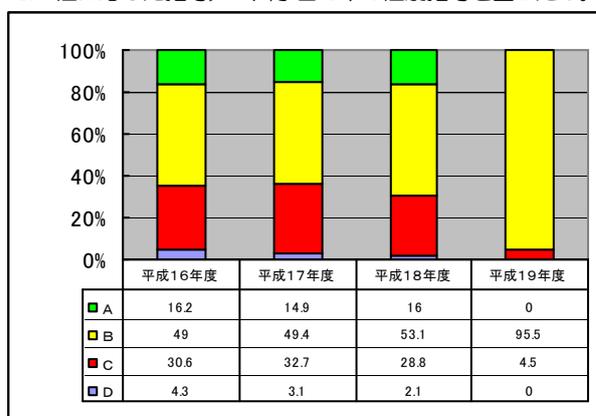
現状

○ 平成19年度の市内中学校のアンケート結果

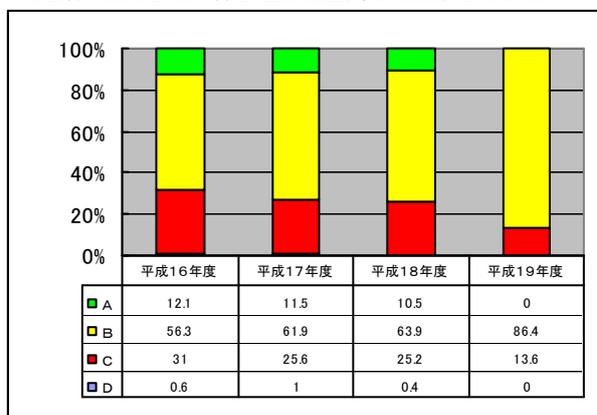
Q：基礎・基本を定着させるための授業改善・工夫を図ったか。



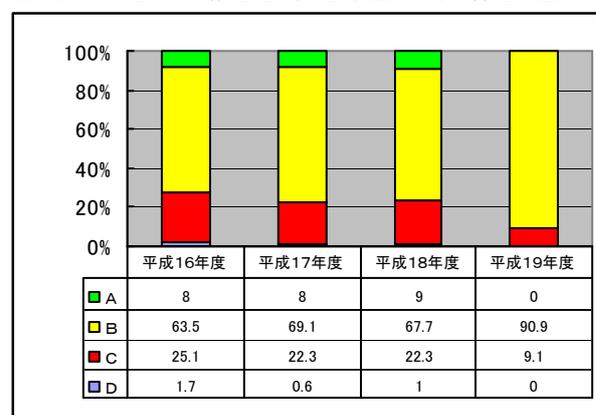
Q：個に応じた指導、一斉学習の中の個別指導を図ったか。



Q：問題解決的な学習や体験活動を重視した授業を行ったか。



Q：評価に関する研修を進め、指導と評価の一体化を図ったか。



<「A」十分、「B」おおむね十分、「C」やや不十分、「D」不十分>

※アンケートの対象はこれまでは各教職員でしたが、平成19年度からは各学校対象に実施したものです。

- ・ どの質問項目においても、学校として反省した場合には、十分とするまでには至っていないことがわかります。
- ・ 「基礎・基本を定着させるための授業改善・工夫」と「個に応じた指導」については、90%以上の学校が、おおむね十分としています。
- ・ 「問題解決的な学習・体験活動を重視した授業」と「評価の研修を進め、指導と評価の一体化を図る」については、おおむね十分とする学校がやや多くなっています。
- ・ 特に、「問題解決的な学習・体験活動を重視した授業」は、新しい学習指導要領でも重視されており、今後の中心的な授業改善の課題といえます。

○ 選択教科の開設状況（市内全22校）

<開設学校数>

（平成19年度）

学年 教科	0教科	1教科	2教科	3教科	4教科	5教科	6教科	7教科	8教科	9教科
第1学年	20校			1校	1校					
第2学年					1校	3校	4校	6校	3校	5校
第3学年							1校	5校	9校	7校

<開設教科別学校数>

（平成19年度）

学年 教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術・ 家庭	英語
第1学年	2校		2校	1校					2校
第2学年	20校	15校	19校	17校	17校	13校	16校	16校	21校
第3学年	19校	16校	21校	18校	20校	20校	21校	20校	21校

<補充学習の開設学校数>

（平成19年度）

学年 教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術・ 家庭	英語
第1学年	2校		2校	1校					2校
第2学年	20校	10校	19校	12校	4校	5校	4校	4校	21校
第3学年	18校	14校	20校	16校	2校	4校	5校	5校	21校

- ・ 生徒の特性や興味・関心にあわせて、開設教科数を増加させています。特に、3年生ではほとんどすべての教科で開設し、生徒は幅広い視点から選ぶことができます。
- ・ 1年次では、選択教科を開設していない学校も20校ありますが、開設している学校は補充的な学習を位置づけ、基礎・基本の定着を図っています。
- ・ 補充学習においては、国語・社会・数学・理科・英語の5教科を開設している学校が多くあります。

課題（今後の方向）

- 問題解決的な学習・体験活動を重視した授業を積極的に取り入れ、個に応じた指導を行うことで、学習意欲を高め、確かな学力の向上を図っていきます。
- 一人一人の生徒の力を的確に把握し、その評価を次の指導に生かす（指導と評価の一体化）ことで、個に応じた指導が可能になり学力の充実につながります。そのための評価規準や授業の中での評価についてさらに工夫改善していきます。
- 選択教科でつきたい力や指導方法・内容等の工夫改善を図り、生徒の特性や習熟の程度等に応じた補充的な学習や発展的な学習を一層進めます。